

○岡崎市（単年度モデル）

1 岡崎市の特徴

- 高齢化率が20%と若いまちであるが、要支援1・2、要介護1の割合が54%と高い。
- 小学校区を単位とした福祉委員会が設置されており、地域での福祉活動が盛んに行われている（サロン、介護予防活動、見守り活動など）。

2 モデル事業の対象地域

岡崎市全域（人口379,264人 高齢化率20.3%）

3 平成26年度の主な取組状況等

分野	項目	実績	成果・課題	分野	項目	実績	成果・課題
関係機関のネットワーク化	関係機関連絡会議（地域包括ケアシステムを構築していく上で必要な対策や地域課題等の解決に向けた対策の検討）	○岡崎市地域ケア推進会議 【開催数】：3回 【構成員】：医師会、歯科医師会、薬剤師会、民生委員、介護支援専門員、学識経験者（岡崎女子大学）、地域包括支援センター、岡崎市長寿課	○ 具体的事例を通じて、医療・介護・生活支援・見守り等のそれぞれの観点で、課題抽出及び解決方法等について議論することができ、多職種間の顔の見える関係を構築することができた。	医療と介護の連携	在宅医療等の普及啓発	○在宅医療・介護ネットワーク講演会 【参加者数】約350人 【内容】 ・岡崎市、岡崎市民病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションの各取組についての紹介 ・名古屋大学医学部附属病院脳卒中医療管理センター 水野正明氏による講演 「超高齢社会を支える地域医療・地域包括ケアシステムと健康づくり」	○ 講演会には、多くの市民に参加していただくことができた。 講演では、岡崎市を始め在宅医療に携わる各関係者より在宅医療への取組について分かりやすく紹介し、参加者に在宅医療の重要性及び連携の必要性について理解を深めていただくことができた。
	社会資源等の把握（各種アンケートの実施、資源マップ（リスト）の作成等）	○第6期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査を実施	○ アンケート調査を実施し、要支援・要介護認定者の日常生活自立度の現状や、介護保険の状況等について把握することができた。				
医療と介護の連携	在宅医療連携協議会（多職種連携の課題の抽出と解決策の検討）	○在宅医療・介護連携協議会 【開催数】：2回 【構成員】医師会、歯科医師会、薬剤師会、学識経験者、民生委員、介護サービス事業者連絡協議会、市民病院、社会福祉協議会、市保健所、地域包括支援センター、岡崎市長寿課	○ 在宅医療・介護連携協議会では主に、認知症支援ノート（地域連携パス）や、ICTの導入等について具体的に検討がなされ、次年度以降の方向性について決めることができた。	平成27年度以降の取組			○ 岡崎市地域ケア推進会議（関係機関連絡会議）については、平成27年度以降も引き続き開催していく。また、地域ケア会議の強化に向けて、各地域ケア会議へ医師、歯科医師、薬剤師等に参加していただく予定である。 ○ 地域包括ケア関係者の研修については、医師会、介護サービス事業者連絡協議会等と内容や対象について協議した上で、多職種を対象とした研修会を実施する予定である。 ○ 在宅医療連携協議会において決定した「認知症支援ノート」を配布し、活用を開始する。在宅医療連携協議会は引き続き開催し、ICTの具体的な導入時期、セキュリティーポリシー整備等について検討を進めるとともに、医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護サービス事業者向け説明会の方法等について検討する。
	ICT等を活用した患者情報の共有	○在宅医療連携協議会での導入に向けた検討を実施 ○豊明市視察	○ ICTについては、名古屋大学方式を採用することに決定した。				
	在宅医療等に従事する多職種の研修	○岡崎認知症ケアネットワーク（研修会） 【開催数】：2回 【対象者】：医療関係者、介護関係者等	○ 岡崎認知症ケアネットワーク（研修会）については、介護職、看護職、ケアマネジャーの参加が多い一方で、医師等の参加が少ない状況であり、今後医師会と協議の上、医師の参加者が増えるように検討を進める。				